

「母と子の絆～カネミ油症の真実」

東京上映会

日時:**2024** 年 **9** 月 **20** 日(金) 14:00～(開場 13:30)

会場:文京区民センター 3A会議室

(交通機関)地下鉄大江戸線、三田線「春日」、丸ノ内線「後樂園」下車

主催:「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会

参加費:一般1,000円、学生以下 500 円

製作・上映会支援カンパ受付

※ 映画上映(86分)後に、稲塚秀孝監督、カネミ油症被害者、映画支援の方々のトークを予定しています。



【案内文】1968年に西日本で発生した食中毒事件「カネミ油症事件」はダイオキシン類という毒性物質がカネミライスオイル(米ぬか油)に混入したことで、数万人の被害者を生み出した。初期の対応を国や地元九州大学が誤ったことにより、カネミ油を口にした本人だけでなく、子や孫の世代にまで被害が広がり、事件から56年経過した今も、何も解決していないままだ。この映画は56年後の今、映画をご覧いただく皆さんにメッセージをお伝えしたいと考えています。

【見どころ】長年カネミ油症被害を抱え、悩み、苦しんでこられたカネミ油症被害者の方々の証言。母体から胎盤を通じて胎児にダイオキシン類の毒性物質が移行することを証言する研究者、医師の方々の証言を軸に構成しています。語りは、松崎謙二、円地晶子、菅原あき(無名塾及び出身者)。スタッフは、「二重被爆語り部・山口彊の遺言」「奇跡の子どもたち」「憲法を武器として」などのドキュメンタリー作品を手掛けてきた、稲塚秀孝監督が2006年に始まり、まとめた渾身の作品です。

【支援金の振込先】ゆうちょ銀行 店番138(イチサンハチ) 口座番号 2302351 口座名 イナヅカ ヒデタカ

問合せ先:稲塚秀孝(090-3433-6644)

ご案内 <https://hahatokonokizuna.com>

母子の絆

カネミ油症の真実

カネミ油症とは

カネミ油症事件は、森永ヒ素ミルク中毒事件、熊本水俣病事件とともに、日本の三大食中毒事件の一つです。カネミ油症事件がはじめて公にされたのは、1968年10月10日付朝日新聞夕刊(西部本社版)で「正体不明の奇病」と報道されました。そのきっかけになったのは、同年10月4日に、福岡県大牟田保健所に一市民が、カネミ倉庫製のライスオイル(米ぬか油)を持ち込んで食中毒の疑いを申し出たことです。調べてみると、1968年の春頃から福岡、長崎、山口、広島など西日本一帯の各地で顔や全身の吹き出物や手足の痛みなど様々な症状を訴える被害者が続出していたことがわかりました。カネミ油症事件がはじめて公にされたのは、1968年10月10日付朝日新聞夕刊(西部本社版)で「正体不明の奇病」と報道されました。そのきっか

けになったのは、同年10月4日に、福岡県大牟田保健所に一市民が、カネミ倉庫製のライスオイル(米ぬか油)を持ち込んで食中毒の疑いを申し出たことです。調べてみると、1968年の春頃から福岡、長崎、山口、広島など西日本一帯の各地で顔や全身の吹き出物や手足の痛みなど様々な症状を訴える被害者が続出していたことがわかりました。

カネミ油症患者の声

生きていくことに絶望し
何度も 命を絶とう
と思った。

私たちがカネミ油症とどのように向き合ってきたか
後世に伝えなければならない (下田順子さん・下田恵さん)



長男を亡くした油症患者の岩村定子さん(右)を撮影する稲塚秀孝さん=2023年11月27日午後1時56分、長崎県五島市奈留町浦、伊藤隆太郎撮影 

長崎県五島市に住む認定患者の岩村定子(いわむら・さだこ)さん(69)は、食品公害「カネミ油症」が表面化してから5年後に産んだ長男満広(みつひろ)ちゃんを、生後4カ月で失った。近年になり、へその緒から検出された原因物質。亡き息子の患者認定を求めて、闘い続けている。同市で17日に行われた追悼式。代表して献花した岩村さんは口を真一文字に結び、こみ上げる涙をこらえた。早世した長男の面影が、頭の中をよぎる。1973年8月に未熟児で生まれた満広ちゃんは上唇が裂け、肛門がなかった。心臓の弁がふさがっていることも判明し、すぐに別の病院へ移された。青白い全身の肌は、泣くたびにどす黒くなったという。同年12月のある朝、容体が急変する。うめき声を上げ続け、搬送先の病院で翌日、息を引き取った。